

令和2年度 学校評価 報告書

石田小学校

学校教育目標

今年度の重点目標

豊かな感性をもち
笑顔で主体的に取り組む
児童の育成

<重点目標>

～いつでも元気で しっかり学び だれにでも優しい 石田っ子～

- ◎自学：よく聴き、よく考え、しっかり表現しよう！
- ◎自主：思いやりと感謝の心をもって、進んで行動しよう！
- ◎自律：心身共に健康でよりよい生活をめざし、最後まで挑戦しよう！

<学校経営方針>

- ①「わかること・できること」の楽しさと喜びや「学ぶ意義」を実感できる授業を通して、確かな学力の定着を図る。(教科等横断的な視点を意識した指導の充実)
- ②自己有用感・規範意識・思いやり・根気等の心を育む教育を推進する。
- ③心身共に健康的な生活習慣を確立するとともに、体力の向上を図る。
- ④職員全員で学校づくりの目標を共有し、組織としての対応力と実践力を高める。
- ⑤職員の資質能力・指導力を高める研修等の充実と職場環境の整備に努める。
- ⑥家庭・地域・関係機関等との連携・協働を図り、「信頼される学校」「安全・安心な学校」「地域と共にある学校」づくりを推進する。

<A あてはまる・B ややあてはまる・C あまりあてはまらない・D あてはまらない・E わからない>

評価項目	自己評価指標	自己評価集計グラフ					成果と課題・改善策	学校関係者評価
		A	B	C	D	E		
教育目標・教育課程	全教職員で、本年度の重点目標を共通理解し、教育目標の具現化のために取り組んでいる。	40.0%	45.0%	15.0%			・保護者ふりかえりの「お子さんは、学校に楽しく通っている」では96.5%、児童ふりかえりの「学校は楽しい」で93.6%とコロナ禍にもかかわらず肯定的な評価が高い。 ・学校だより、学級通信やホームページ等を通して学校の様子を伝える努力を試みたが、感染症拡大防止対策として多くの行事が縮小、延期、中止となったため、保護者が来校する機会が少なくなり、学校での児童の様子が伝わりにくいとの声があった。学校行事や情報提供の方法をより工夫していきたい。 ・臨時休業や緊急事態宣言下での学校生活等不安を感じる要素が多い中、児童も保護者も学校を楽しみと感じてくれることには感謝したい。一方で不安を感じている児童もいることを忘れず、寄り添っていきたい。	・教職員の方々、コロナ禍での児童の学校教育は大変なご苦労と思いますが、頑張ってください。 ・教職員は重点目標を共通理解できてこそ、立派な教育ができると思う。Cが15%であるとは少し残念である。 ・コロナ禍の学校運営は大変だったと思いますが、親子とも良い評価がほとんどだったことは、教職員の皆様の努力のおかげだと思う。感謝したい。 ・教育目標や教育課程での職員間の認識と保護者の認識及び子どもたちの認識の乖離やずれはないか検証が必要である。
	学校は、教育目標・方針をわかりやすく児童生徒・保護者に伝えている。	50.0%	47.5%	2.5%			・保護者ふりかえりの「学校はわかりやすい授業で学力の向上に努めている」では若干ではあるが(3.3%)肯定的な評価が下がっている。一方職員は9%上がっている。授業時数が減少したり、制約のある授業等で学力の低下を心配している保護者もいる。職員は学校での新しい生活様式を意識しながら、コロナ禍においても十分な学力を保障できるよう、さらに授業改善に努め、家庭と連携していきたい。 ・学習の評価方法については昨年度より取り組んでいると答えた職員は増加しているが(17.3%増)、臨時休業等で大幅に教育過程の変更があったため、まだ説明が不十分との声もある。職員全体で評価について再確認し、保護者に伝えていく努力を続ける必要がある。 ・感染症防止対策で多くの行事が縮小・延期・中止になったことは非常に残念だった。しかし、形を変えたスポーツフェスティバルや各学年の行事には、子どもたちは積極的に参加していると多くの職員はとらえている。また、保護者からも学校の取組に感謝の声をいただいている。一方で中止になってしまった行事への来年度の要望、期待感もある。コロナの状況を踏まえながら検討していきたい。	・低学年保護者が学校の取組みに対して「わからない」という回答が増えたのは、コロナ禍で学校に行く機会が減ったことによると思う。保護者が学校に行く機会はあるべく無くさないようにする必要があると思う。 ・子どもたちは運動会等の諸行事を楽しみに参加している。コロナ禍でも課外活動を大切に、そのことで学校教育目標や重点目標の自学、自主、自立が自然と身につく達成されると思う。
	子どもは、安心して楽しい学校生活を送っている。	42.5%	55.0%	2.5%			・保護者ふりかえりの「学校はわかやすい授業で学力の向上に努めている」では若干ではあるが(3.3%)肯定的な評価が下がっている。一方職員は9%上がっている。授業時数が減少したり、制約のある授業等で学力の低下を心配している保護者もいる。職員は学校での新しい生活様式を意識しながら、コロナ禍においても十分な学力を保障できるよう、さらに授業改善に努め、家庭と連携していきたい。 ・学習の評価方法については昨年度より取り組んでいると答えた職員は増加しているが(17.3%増)、臨時休業等で大幅に教育過程の変更があったため、まだ説明が不十分との声もある。職員全体で評価について再確認し、保護者に伝えていく努力を続ける必要がある。 ・感染症防止対策で多くの行事が縮小・延期・中止になったことは非常に残念だった。しかし、形を変えたスポーツフェスティバルや各学年の行事には、子どもたちは積極的に参加していると多くの職員はとらえている。また、保護者からも学校の取組に感謝の声をいただいている。一方で中止になってしまった行事への来年度の要望、期待感もある。コロナの状況を踏まえながら検討していきたい。	・子どもは学校に行くのが楽しくないと思っているのに、親は楽しく行っていると思っている親子が少数ではあるが、存在することを示している。親に心配をかけまいとして、親の前では楽しく学校に行っている振りをしているかもしれないと思うと心配である。担任の先生が察知して寄り添ってくださればと願うばかりである。
学習指導	授業方法の改善に努め、わかりやすい授業を行っている。	32.5%	67.5%				・保護者ふりかえりの「学校はわかやすい授業で学力の向上に努めている」では若干ではあるが(3.3%)肯定的な評価が下がっている。一方職員は9%上がっている。授業時数が減少したり、制約のある授業等で学力の低下を心配している保護者もいる。職員は学校での新しい生活様式を意識しながら、コロナ禍においても十分な学力を保障できるよう、さらに授業改善に努め、家庭と連携していきたい。 ・学習の評価方法については昨年度より取り組んでいると答えた職員は増加しているが(17.3%増)、臨時休業等で大幅に教育過程の変更があったため、まだ説明が不十分との声もある。職員全体で評価について再確認し、保護者に伝えていく努力を続ける必要がある。 ・感染症防止対策で多くの行事が縮小・延期・中止になったことは非常に残念だった。しかし、形を変えたスポーツフェスティバルや各学年の行事には、子どもたちは積極的に参加していると多くの職員はとらえている。また、保護者からも学校の取組に感謝の声をいただいている。一方で中止になってしまった行事への来年度の要望、期待感もある。コロナの状況を踏まえながら検討していきたい。	・高学年の児童は「学校へは行くもの」と考えているので、辛そうな児童は教師、親が早く気づいてあげてほしい。高学年は学科別の先生が望ましい。音楽・体育・美術等はすでに専任になっているらしいが、算数、理科、社会等難しい内容を分かりやすく教えてほしい。
	学習の評価方法について、子ども・保護者に説明を行っている。	35.0%	55.0%	10.0%			・保護者ふりかえりの「学校はわかやすい授業で学力の向上に努めている」では若干ではあるが(3.3%)肯定的な評価が下がっている。一方職員は9%上がっている。授業時数が減少したり、制約のある授業等で学力の低下を心配している保護者もいる。職員は学校での新しい生活様式を意識しながら、コロナ禍においても十分な学力を保障できるよう、さらに授業改善に努め、家庭と連携していきたい。 ・学習の評価方法については昨年度より取り組んでいると答えた職員は増加しているが(17.3%増)、臨時休業等で大幅に教育過程の変更があったため、まだ説明が不十分との声もある。職員全体で評価について再確認し、保護者に伝えていく努力を続ける必要がある。 ・感染症防止対策で多くの行事が縮小・延期・中止になったことは非常に残念だった。しかし、形を変えたスポーツフェスティバルや各学年の行事には、子どもたちは積極的に参加していると多くの職員はとらえている。また、保護者からも学校の取組に感謝の声をいただいている。一方で中止になってしまった行事への来年度の要望、期待感もある。コロナの状況を踏まえながら検討していきたい。	・高学年の児童は「学校へは行くもの」と考えているので、辛そうな児童は教師、親が早く気づいてあげてほしい。高学年は学科別の先生が望ましい。音楽・体育・美術等はすでに専任になっているらしいが、算数、理科、社会等難しい内容を分かりやすく教えてほしい。
	家庭学習の定着に向け、家庭と連携して取り組んでいる。	37.5%	62.5%				・保護者ふりかえりの「学校はわかやすい授業で学力の向上に努めている」では若干ではあるが(3.3%)肯定的な評価が下がっている。一方職員は9%上がっている。授業時数が減少したり、制約のある授業等で学力の低下を心配している保護者もいる。職員は学校での新しい生活様式を意識しながら、コロナ禍においても十分な学力を保障できるよう、さらに授業改善に努め、家庭と連携していきたい。 ・学習の評価方法については昨年度より取り組んでいると答えた職員は増加しているが(17.3%増)、臨時休業等で大幅に教育過程の変更があったため、まだ説明が不十分との声もある。職員全体で評価について再確認し、保護者に伝えていく努力を続ける必要がある。 ・感染症防止対策で多くの行事が縮小・延期・中止になったことは非常に残念だった。しかし、形を変えたスポーツフェスティバルや各学年の行事には、子どもたちは積極的に参加していると多くの職員はとらえている。また、保護者からも学校の取組に感謝の声をいただいている。一方で中止になってしまった行事への来年度の要望、期待感もある。コロナの状況を踏まえながら検討していきたい。	・高学年の児童は「学校へは行くもの」と考えているので、辛そうな児童は教師、親が早く気づいてあげてほしい。高学年は学科別の先生が望ましい。音楽・体育・美術等はすでに専任になっているらしいが、算数、理科、社会等難しい内容を分かりやすく教えてほしい。
	学級・学校生活の充実のために、学級活動の充実を図っている。	47.5%	50.0%	2.5%			・保護者ふりかえりの「学校はわかやすい授業で学力の向上に努めている」では若干ではあるが(3.3%)肯定的な評価が下がっている。一方職員は9%上がっている。授業時数が減少したり、制約のある授業等で学力の低下を心配している保護者もいる。職員は学校での新しい生活様式を意識しながら、コロナ禍においても十分な学力を保障できるよう、さらに授業改善に努め、家庭と連携していきたい。 ・学習の評価方法については昨年度より取り組んでいると答えた職員は増加しているが(17.3%増)、臨時休業等で大幅に教育過程の変更があったため、まだ説明が不十分との声もある。職員全体で評価について再確認し、保護者に伝えていく努力を続ける必要がある。 ・感染症防止対策で多くの行事が縮小・延期・中止になったことは非常に残念だった。しかし、形を変えたスポーツフェスティバルや各学年の行事には、子どもたちは積極的に参加していると多くの職員はとらえている。また、保護者からも学校の取組に感謝の声をいただいている。一方で中止になってしまった行事への来年度の要望、期待感もある。コロナの状況を踏まえながら検討していきたい。	・高学年の児童は「学校へは行くもの」と考えているので、辛そうな児童は教師、親が早く気づいてあげてほしい。高学年は学科別の先生が望ましい。音楽・体育・美術等はすでに専任になっているらしいが、算数、理科、社会等難しい内容を分かりやすく教えてほしい。
	子どもは、運動会・遠足などの諸行事を楽しみにし、積極的に参加している。	80.0%	17.5%	2.5%			・保護者ふりかえりの「学校はわかやすい授業で学力の向上に努めている」では若干ではあるが(3.3%)肯定的な評価が下がっている。一方職員は9%上がっている。授業時数が減少したり、制約のある授業等で学力の低下を心配している保護者もいる。職員は学校での新しい生活様式を意識しながら、コロナ禍においても十分な学力を保障できるよう、さらに授業改善に努め、家庭と連携していきたい。 ・学習の評価方法については昨年度より取り組んでいると答えた職員は増加しているが(17.3%増)、臨時休業等で大幅に教育過程の変更があったため、まだ説明が不十分との声もある。職員全体で評価について再確認し、保護者に伝えていく努力を続ける必要がある。 ・感染症防止対策で多くの行事が縮小・延期・中止になったことは非常に残念だった。しかし、形を変えたスポーツフェスティバルや各学年の行事には、子どもたちは積極的に参加していると多くの職員はとらえている。また、保護者からも学校の取組に感謝の声をいただいている。一方で中止になってしまった行事への来年度の要望、期待感もある。コロナの状況を踏まえながら検討していきたい。	・高学年の児童は「学校へは行くもの」と考えているので、辛そうな児童は教師、親が早く気づいてあげてほしい。高学年は学科別の先生が望ましい。音楽・体育・美術等はすでに専任になっているらしいが、算数、理科、社会等難しい内容を分かりやすく教えてほしい。
	総合的な学習の時間では、年間計画に則り、子どもが自らの課題を見つけ、考え、問題の解決や探求活動に主体的に取り組むようにしている。	25.0%	67.5%	7.5%			・保護者ふりかえりの「学校はわかやすい授業で学力の向上に努めている」では若干ではあるが(3.3%)肯定的な評価が下がっている。一方職員は9%上がっている。授業時数が減少したり、制約のある授業等で学力の低下を心配している保護者もいる。職員は学校での新しい生活様式を意識しながら、コロナ禍においても十分な学力を保障できるよう、さらに授業改善に努め、家庭と連携していきたい。 ・学習の評価方法については昨年度より取り組んでいると答えた職員は増加しているが(17.3%増)、臨時休業等で大幅に教育過程の変更があったため、まだ説明が不十分との声もある。職員全体で評価について再確認し、保護者に伝えていく努力を続ける必要がある。 ・感染症防止対策で多くの行事が縮小・延期・中止になったことは非常に残念だった。しかし、形を変えたスポーツフェスティバルや各学年の行事には、子どもたちは積極的に参加していると多くの職員はとらえている。また、保護者からも学校の取組に感謝の声をいただいている。一方で中止になってしまった行事への来年度の要望、期待感もある。コロナの状況を踏まえながら検討していきたい。	・高学年の児童は「学校へは行くもの」と考えているので、辛そうな児童は教師、親が早く気づいてあげてほしい。高学年は学科別の先生が望ましい。音楽・体育・美術等はすでに専任になっているらしいが、算数、理科、社会等難しい内容を分かりやすく教えてほしい。
	自立した人間として、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育に取り組んでいるか。	27.5%	67.5%	5.0%			・保護者ふりかえりの「学校はわかやすい授業で学力の向上に努めている」では若干ではあるが(3.3%)肯定的な評価が下がっている。一方職員は9%上がっている。授業時数が減少したり、制約のある授業等で学力の低下を心配している保護者もいる。職員は学校での新しい生活様式を意識しながら、コロナ禍においても十分な学力を保障できるよう、さらに授業改善に努め、家庭と連携していきたい。 ・学習の評価方法については昨年度より取り組んでいると答えた職員は増加しているが(17.3%増)、臨時休業等で大幅に教育過程の変更があったため、まだ説明が不十分との声もある。職員全体で評価について再確認し、保護者に伝えていく努力を続ける必要がある。 ・感染症防止対策で多くの行事が縮小・延期・中止になったことは非常に残念だった。しかし、形を変えたスポーツフェスティバルや各学年の行事には、子どもたちは積極的に参加していると多くの職員はとらえている。また、保護者からも学校の取組に感謝の声をいただいている。一方で中止になってしまった行事への来年度の要望、期待感もある。コロナの状況を踏まえながら検討していきたい。	・高学年の児童は「学校へは行くもの」と考えているので、辛そうな児童は教師、親が早く気づいてあげてほしい。高学年は学科別の先生が望ましい。音楽・体育・美術等はすでに専任になっているらしいが、算数、理科、社会等難しい内容を分かりやすく教えてほしい。
児童生徒指導	問題行動が発生した時の対処の仕方が教職員間で共通理解されている。	47.5%	50.0%	2.5%			・保護者ふりかえりより「学校はいじめのないよりよい人間関係作り」に努めている」でプラス回答が84.4%、「児童や保護者の悩み等を相談できる体制づくり」に努めている」でのプラス回答が95.9%と、高評価である。 ・児童ふりかえりの「困ったとき先生に相談することができる」のプラス回答が78.8%であるが、「あまりそう思わない」が各学年とも11～22%ある。また、職員自己評価の「子どもの悩みや相談などに適切に対応している」に対し「あてはまる」の回答が昨年度より増加している。 ・いじめ不登校については職員会議、児童指導部会、学年会等で情報共有を図り、早期発見・早期対応に努めたい。また、アンケートの定期的な実施は継続したい。 ・「友達やお世話になっている人にあいさつをしている」が94%と児童の意識は高いが、朝の場面を中心になかなか声が出にくい。また、保護者からも「登校時あいさつを返せない児童が多い」とのご指摘もいただいた。来年度は全校であいさつに取り組んでいきたい。	・先生方にはもう少し児童・保護者に寄り添う気持ちを高められたらと思う。一方的な弱者への思いやりばかりではなく、支援を受けられる児童、その保護者、関係者も感謝の気持ちが醸成される風土が求められる。
	保護者と連携し、基本的な生活習慣の定着に向けて取り組んでいる。	40.0%	55.0%	5.0%			・保護者ふりかえりより「学校はいじめのないよりよい人間関係作り」に努めている」でプラス回答が84.4%、「児童や保護者の悩み等を相談できる体制づくり」に努めている」でのプラス回答が95.9%と、高評価である。 ・児童ふりかえりの「困ったとき先生に相談することができる」のプラス回答が78.8%であるが、「あまりそう思わない」が各学年とも11～22%ある。また、職員自己評価の「子どもの悩みや相談などに適切に対応している」に対し「あてはまる」の回答が昨年度より増加している。 ・いじめ不登校については職員会議、児童指導部会、学年会等で情報共有を図り、早期発見・早期対応に努めたい。また、アンケートの定期的な実施は継続したい。 ・「友達やお世話になっている人にあいさつをしている」が94%と児童の意識は高いが、朝の場面を中心になかなか声が出にくい。また、保護者からも「登校時あいさつを返せない児童が多い」とのご指摘もいただいた。来年度は全校であいさつに取り組んでいきたい。	・先生方にはもう少し児童・保護者に寄り添う気持ちを高められたらと思う。一方的な弱者への思いやりばかりではなく、支援を受けられる児童、その保護者、関係者も感謝の気持ちが醸成される風土が求められる。
	子どもの悩みや相談など適切に対応している。	57.5%	40.0%	2.5%			・保護者ふりかえりより「学校はいじめのないよりよい人間関係作り」に努めている」でプラス回答が84.4%、「児童や保護者の悩み等を相談できる体制づくり」に努めている」でのプラス回答が95.9%と、高評価である。 ・児童ふりかえりの「困ったとき先生に相談することができる」のプラス回答が78.8%であるが、「あまりそう思わない」が各学年とも11～22%ある。また、職員自己評価の「子どもの悩みや相談などに適切に対応している」に対し「あてはまる」の回答が昨年度より増加している。 ・いじめ不登校については職員会議、児童指導部会、学年会等で情報共有を図り、早期発見・早期対応に努めたい。また、アンケートの定期的な実施は継続したい。 ・「友達やお世話になっている人にあいさつをしている」が94%と児童の意識は高いが、朝の場面を中心になかなか声が出にくい。また、保護者からも「登校時あいさつを返せない児童が多い」とのご指摘もいただいた。来年度は全校であいさつに取り組んでいきたい。	・先生方にはもう少し児童・保護者に寄り添う気持ちを高められたらと思う。一方的な弱者への思いやりばかりではなく、支援を受けられる児童、その保護者、関係者も感謝の気持ちが醸成される風土が求められる。
特別支援教育	支援を必要とする児童の把握に努め、校内委員会で検討し、支援を行っている。	47.5%	45.0%	7.5%			・保護者はいじめがないこと、いじめには最善を尽くす学校職員がいることがわかれば何が起ころうとも問題は大事にはならない。隠したり、曖昧にしたり、関知しないなどのことがなければ、いじめが起ころうとも成長の証と受け止めてくれる。	
安全・保健管理	学校保健法に基づき、全職員で疾病予防に努めている。	75.0%	20.0%	2.5%			・「全職員で疾病予防に努めている」は昨年より25%増である。養護教諭、栄養教諭と学級担任が連携し、コロナ対策の保健指導や食育指導の授業を実施した。このことにより、児童の健康保持や食に関する意識が高まっているように感じられる。新型コロナウイルス感染症予防対策には児童はもちろん、教職員、消毒スタッフや保護者の方々等さまざまな方たちの協力も得ながら皆で取り組んでいる。 ・PTAや地域ボランティア等の協力により、平常時だけでなく悪天候時などにおいても、登下校や地域での安全が図られた。「登下校や地域での児童の安全確保に努めた」について保護者のプラス回答は95.7%である。	・子どもの教育の原点は家庭ですが、保護者は学校依存症になっている。保護者との面談でも家庭の教育が大切であることを徹底されたい。
	子どもたちが、安心して学校生活を送れるように安全（通学路も）点検を行っている。	57.5%	40.0%	2.5%			・「全職員で疾病予防に努めている」は昨年より25%増である。養護教諭、栄養教諭と学級担任が連携し、コロナ対策の保健指導や食育指導の授業を実施した。このことにより、児童の健康保持や食に関する意識が高まっているように感じられる。新型コロナウイルス感染症予防対策には児童はもちろん、教職員、消毒スタッフや保護者の方々等さまざまな方たちの協力も得ながら皆で取り組んでいる。 ・PTAや地域ボランティア等の協力により、平常時だけでなく悪天候時などにおいても、登下校や地域での安全が図られた。「登下校や地域での児童の安全確保に努めた」について保護者のプラス回答は95.7%である。	・子どもの教育の原点は家庭ですが、保護者は学校依存症になっている。保護者との面談でも家庭の教育が大切であることを徹底されたい。
	学校災害（地震・火災）時の対応や身の回りの安全について日頃から指導を行っている。	61.5%	33.3%	5.1%			・「全職員で疾病予防に努めている」は昨年より25%増である。養護教諭、栄養教諭と学級担任が連携し、コロナ対策の保健指導や食育指導の授業を実施した。このことにより、児童の健康保持や食に関する意識が高まっているように感じられる。新型コロナウイルス感染症予防対策には児童はもちろん、教職員、消毒スタッフや保護者の方々等さまざまな方たちの協力も得ながら皆で取り組んでいる。 ・PTAや地域ボランティア等の協力により、平常時だけでなく悪天候時などにおいても、登下校や地域での安全が図られた。「登下校や地域での児童の安全確保に努めた」について保護者のプラス回答は95.7%である。	・子どもの教育の原点は家庭ですが、保護者は学校依存症になっている。保護者との面談でも家庭の教育が大切であることを徹底されたい。
研修	研究テーマに沿った校内研修が、計画的に行われ、日常の教育実践に生かされている。	12.5%	65.0%	20.0%	2.5%		・新型コロナウイルス感染症対策を意識しながらどのような教育活動ができるかを全教職員で模索した。来年度はその工夫を生かし、研修を続けたい。	

評価項目	自己評価指標	自己評価集計グラフ					成果と課題・改善策	学校関係者評価
		A	B	C	D	E		
情報提供	「学校へ行こう週間」等を受け、開かれた学校づくりに努めている。	20.0%	62.5%	17.5%			<ul style="list-style-type: none"> ・「学校へ行こう週間」「授業参観・懇談会」「読み聞かせ」や体験学習、地域の方々との交流等多くの活動が見送られた。これまでの活動が如何に貴重で感謝すべきものだったか、考えさせられた。コロナの状況を鑑みながら、徐々にこれらの活動を再開していきたい。 	
	児童生徒の個人情報の保護には、十分に気を配り、情報保護方針に沿って対応している。	67.5%	32.5%					
保護者・地域との連携	授業参観・懇談会等へ多くの参加があるように工夫し、行っている。	32.5%	60.0%	7.5%		<ul style="list-style-type: none"> ・この3項目とも昨年度に比べると職員の評価は下がっている。コロナ禍において、保護者・地域との連携には制限があり、不十分だったと感じている。保護者からも「できる活動が減り、残念だ」という意見もあったが、「先生方が工夫して、可能な限りがんばってください、本当に感謝しています。」との声もあった。コロナの状況はこの先も予測不可能である。だからこそ、できる範囲での保護者、地域との連携は重要かつ必要だと感じた今年度であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下校時子どもたちに出会うと「こんにちは」とあいさつしてくれる。リパティタウンも30年が経過し、子どもたちの数が激減してしまった。高齢者の家庭が増えているので子どもたちと少しでも触れ合えるのはとてもうれしい。学校での指導のおかげである。 	
	保護者・地域の方には、ボランティアとして積極的に協力してもらっている。	40.0%	50.0%	10.0%				
	家庭との連携を大切にし、学校便り等により、学校の様子をよく知らせている。	55.0%	42.5%	2.5%				
会議・施設等	職員会議・学年会などの会議が、情報交換・共通理解の場として有効に機能している。	57.5%	27.5%	15.0%		<ul style="list-style-type: none"> ・会議では終了時間を確認するとともに、PCの校務支援ソフトを活用し効率化を進めており、成果が表れている。 ・職員の年齢構成は若手とベテランの2極分化が顕著であるが、お互いに声かけをし、職場の明るい雰囲気作りを心がけている。 ・石田小の施設はゆとりある活動スペースなど、非常に恵まれている。しかし20年が過ぎ、樹木や外壁等手入れの必要性が生じてきている。安全点検等で確認し、必要に応じ市教育委員会と連携し、適切な維持管理に努めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の先生を希望する学生が減少している一因に他業種に比べ、長時間勤務があげられる。職務内容を精査して先生にも「ゆとり」を持ってほしい。帰宅しづらい雰囲気があるのなら、変えてほしい。先生はいつも元気でいてほしいからである。 	
	教育活動における問題や悩みについて気軽に話し合えるような人間関係ができています。	45.0%	47.5%	7.5%				
	設置者と連携し、施設・設備の安全・維持管理のための点検・整備に取り組んでいる。	47.5%	52.5%					